

はじめに

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証してその改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることなどを目的として実施しているものであります。本年度は新たに理科が追加され、札幌市は、文部科学省による抽出校を対象として、平成24年4月17日（火）に本調査を実施いたしました。

札幌市においては、平成19年度からの開始以来、本調査を実施し、分析と改善の方向性等についてその都度報告書としてまとめてきました。平成24年度調査につきましても、全国的な状況との関係において、本市の調査結果から明らかとなった課題や改善の方向等を、9月に「札幌市の調査結果の概要」としてまとめ、各学校に示しましたが、その後、各領域や設問ごとに、全国の平均正答率との比較や解答類型及び無解答率の検討など詳細な分析を行い、このたび指導方法の改善の方向等について本実施報告書にまとめました。

教科に関する調査の結果を見ると、全国平均とほぼ同程度、または上回っている領域が各教科にわたって見られるものの、算数における「数量関係」など、一部の教科や領域・設問において、全国と比較して下回っているものが見られております。

また、児童生徒質問紙調査では、小中学校ともに、1日当たりの読書時間や図書館の利用に関しては、全国の平均を上回っており、読書が好きという回答も、全国平均に比べて多くなっております。一方で、「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という設問において、「全くしない」という回答が全国に比べて多いなどの課題が見られております。

各学校におかれましては、「札幌市学校改善支援プラン」（平成20年3月）と併せて、本実施報告書を積極的に活用して、子どもたちの学習意欲を高め、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育成するために、日々の指導方法等のより一層の充実・改善を進めるようお願いいたします。

札幌市教育委員会

教育長 北原 敬文